

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

Rotary International District 2740

AUGUST

Vol. 2

2022.8



佐賀県立佐賀城本丸歴史館

Rotary



ガバナー
月信

2022-2023年度
国際ロータリー第2740地区

ガバナー 上村 春甫

2022－2023年度 国際ロータリーのテーマ



イマジン ロータリー

index

ガバナーメッセージ	2
地区委員長挨拶	4
米山記念奨学委員長セミナー報告	12
米山記念奨学生募集学校説明会 報告	13
国際青少年交換委員会報告	13
地区大会日程のお知らせ	14
肥前國の風景	裏表紙

表紙説明 | 佐賀城本丸御殿

「佐賀城」は、肥前國佐賀郡佐賀にあった日本の城で、本丸御殿とは「城」の中核部の建物です。古名は「佐嘉城」とも呼ばれました。

御玄関、外御書院、御座間など多くの部屋があり、おもに佐賀藩の藩政が執り行われていました。

最近では、城壁にハート形の植込みがあり、若い人の「映えスポット」にもなっています。

表紙・本文帯
「月信」揮毫

牛島 征四郎
(佐賀RC)

GOVERNOR'S MESSAGE

会員増強月間によせて

2022-2023年度 第2740地区 ガバナー 上村 春甫

8月は会員増強月間です。2022年1月末時点での会員数は2,100名でした。2021年7月1日に比べると34名増えています。コロナ禍が続くなか会員増加となったことは、皆様の努力の賜物であり深く敬意を表したいと思います。この原稿を書いている時点の数字はわかりませんが、やれば出来るということでこのひと月皆様と共に頑張りたいと思います。

その上で、今年度の2740地区の「継続的な重要課題への取組み」のひとつとして「会員の増強」をあげていること、また、「地区活動及びクラブサポートの重点項目」として「女性会員の増強と女性会員の積極性と帰属意識とが醸成されるような環境の整備」と「青少年活動の活性化」とをあげていること等を踏まえ、RIの「会員増強推進用手引き」の中の参考になるようなやり方を以下ご紹介したいと思います。

- ・専門職務や地域社会のリーダーとして活躍する女性は、入会の対象となるべき重要な人口層を形成していることから、専門職務や地域社会のリーダーとして活躍する女性に着目した会員増強活動を行う。
- ・若い人々にとって都合のよいクラブの親睦活動やネットワークづくりの活動を新たに設け、それを勧誘対象者に説明する。
- ・会員として快く受け入れられていると新会員に感じてもらえるように、若い新ロータリアンにベテランのロータリアンをメンター（指導者）として割り当て、メンターが、新ロータリアンを教育したり、クラブの親睦活動や奉仕プロジェクトに積極的に関わるよう指導したりする態勢を整え、それを勧誘対象者に説明する。
- ・プログラム学友（元ローターアクト、インターア

クト、青少年交換、研究グループ交換、そのほかのRIと財団の教育プログラム参加者）をゲストとして例会に招き、適切であれば、学友を会員として推薦する。

- ・各例会において、ゲストや卓話者から名刺をもらい、後で礼状を送るなどして再度例会へ招き、適切であれば勧誘する。
- ・クラブの公共イメージは、会員の増加に直接影響を及ぼすものなので、クラブの会員増強委員会と広報委員会が協力してクラブの行事や奉仕プロジェクトの広報を行い、多くの人々にクラブが行っている有意義な活動について知ってもらって、会員候補者を惹きつける。
- ・クラブのウェブサイト上で、ブログ、ビデオ画像、ポッドキャストといった新しいメディアの活用を試みる。クラブ会員の自己紹介を盛り込んだ勧誘用ビデオをポスティングし、クラブ会員となることの恩典を説明する。
- ・会員候補者と名刺を交換した場合、もらった名刺の裏に交わした会話の内容を書き留めておき、後に勧誘する際の参考とする。

いかがでしょうか。もちろん全部は出来ないと思いますが、取り入れることが出来るところは取り入れて会員増強に繋げて頂ければと思います。

会員の増加により様々な人がロータリアンとなることでロータリーの多様性がより高まります。その多様なロータリアンと親睦 (fellowship) を深めることで、今まで以上に色々なことを学んでいきたいと思っています。

以上

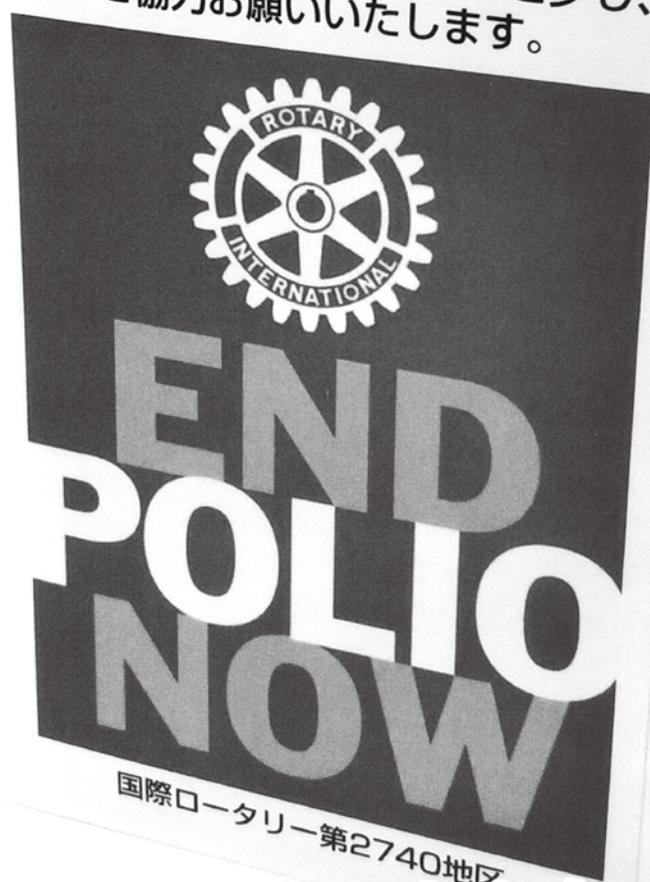
発症率は99%減少！ポリオはあと少しで撲滅できます！

WE ARE THIS CLOSE TO
**ENDING
POLIO.**

Rotary 

ポリオ・小児麻痺撲滅に
月1回のワンコイン援助を
お願いします！

ポリオ(小児まひ)撲滅まであと少し、
ご協力お願いいたします。



世界からポリオを無くそう！

地区委員長挨拶

RLI推進委員会

吉岡 義治

佐賀南RC



本年度のRLI推進委員会委員長を仰せつかりました。
第2740地区でファシリテーションを用いたRLI研修を行う動きがはじまり、早4年目を迎えようとしています。

RLI（ロータリーリーダーシップ研究会）はRIが承認している多地区合同のプログラムで、現在、世界の80%近い地区が参加しています。

1年目に理念委員会として、RLI日本支部・中村靖治RLIディスカッションリーダーによる「ロータリーでのファシリテーション」というテーマで講演をして頂きました。

ファシリテーションをするには、ディスカッションリーダー（DL）が必要となります。

私達は他の地区のご厚意で、RLIDL研修を受講させて頂き、10名のディスカッションリーダーが誕生しました。

2年目に当地区にて、中村靖治RLIDLリーダーによる初のDL研修にて、更に18名のDLが誕生致しました。

3年目に、RLI全世界標準規格での『第一回RLI研修』を開催致しました。

そして本年度、4年目は更に充実した内容にしていきたく思います。

ロータリーのファシリテーションは、例会活動が円滑に進むように、そして例会の成果を最大化できるように推進することです。それにより例会を盛り上げ、退会による会員減少を防ぐことにも繋がると考えます。また、RLI研修のゴールは、私たち『ひとり・ひとり』のロータリアンとしての成長とロータリー観の確立です。

それらの考えをさらに推し進め、ファシリテーションの技術を身につけることで、他者理解、効果的な意見交換、合意形成力を身につけ、それをあらゆる場所に適用してほしく思います。ご自身の職業、家庭、そして地域社会へといろいろなところで活用してください。

ロータリーで学び、RLIを学ぶことで、近い将来、各クラブの例会が毎回、皆が活発な意見を出し、切磋琢磨して己の限界を知り、自分の職業への転機を見出すことのできる場所になればと願います。

クラブ管理運営委員会

野田 初憲

神埼RC



2022～2023年度、女性初のRI会長ジェニファーE・ジョーンズさんの掲げたRIテーマ「イマジン・ロータリー」及び、当地区上村ガバナーの掲げられたテーマ「想像して、創造しよう…ロータリーで未来を！」に基づき、「女性会員の増強と活発化」「青少年活動の活性化」「リーダーシップ開発活動（RLI）の強化」を図りながら、引き続き未来を見据えた持続可能なロータリー活動・運営を考えていかなければなりません。

しかしながら、世界的なコロナ禍のなか、社会の文化や常識に対して否応なしに変化が求められ、ロータリー活動においても今までの様な活動が出来ない状況が、今なお続いております。変化の激しい時代ではありますが、私たち一人ひとりがロータリアンとして更なる前進を図るにはどうすれば良いかを考えていく必要があります。

ロータリーは今、革新性と柔軟性を持ったクラブ運営を求められています。これは、クラブが効果的で円滑な管理運営を行っているかが問われているのだと言えます。創意工夫を凝らした会合の議題とプロジェクトを企画し、充実したロータリーライフが送れるような委員会活動を目指して参ります。

新年度を迎え、我々に求められていることは、会員が心一つにすること。そして高い意識の下、未来に向かって再び新たな方向を見出し、会員それぞれの意識と行動をより良い方向に変化させることが出来るなら、この一年は、奉仕と親睦をより一層深めていく為に重要な一年となることは間違いありません。

ロータリークラブの原点である「The 4-Way Test」、

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

を活動における不変の羅針盤とし、本年度も引き続きぶれない管理運営に努めて参ります。

地区委員長挨拶

地区会員増強委員会

藤永 勝之

鹿島RC



ロータリー会員の皆様、今年度も国際ロータリー第2740地区会員増強委員会委員長を仰せつかりました鹿島ロータリークラブの藤永勝之です。1年間よろしくご指導のほどお願い致します。

今日、日本ではロータリー会員の減少があります。退会の理由は転職、退職、高齢、病気、コロナ危機での経済的事情で退会する人、ロータリーへの魅力を失った人、色々な要因がありますが、ロータリーの目的はどんな状況になろうとも変わりません。

「良い人間社会、幸せなづくり」というロータリー本来の理想に立ち戻り、会員を増やしクラブを元気にすることが求められています。

私の考えるロータリークラブとは

- ① 自分の人格を高める
- ② 健全な自分の家庭を築く
- ③ 自分の住んでいる地域をよくする
- ④ 国の平和のために努力する

と思っております。

ロータリーの知識や経験がどんなに豊富でも、まず人として、相手の心を動かす人格、信頼感がなかったらロータリーの魅力を発信することができません。

今年度はロータリーの真髄を皆さんと勉強し、研究する場を各クラブに設けたいと思います。

ロータリーのさらなる発展をめざして、多様性を備えた会員基盤づくりのために、若い世代、女性に参加を呼びかけましょう。

公共イメージ委員会

原田 徹

雲仙 諫早南RC



皆様こんにちは。RI第2740地区2022-2023年度公共イメージ委員長の原田と申します。所属は雲仙 諫早南ロータリークラブで、ロータリー歴は9年となります。よろしく願いいたします。

昨年度より引き続き委員長の重責を拝命することとなりました。

コロナ禍の影響で皆様のクラブにおける例会や奉仕活動等も計画通りに進捗できなかったことが多いのではないかと思います。新年度の準備等も不十分なままのスタートではありますが、佐賀・長崎地域でのロータリーの公共イメージの向上に努め、会員増強や各クラブの活性化に貢献できればと思います。

公共イメージの向上にご協力いただきやすい環境整備の一環として、地区の公式WEBサイトをリニューアルして丸1年。各方面からご意見やご要望をいただきながら、日々より良い情報提供を心掛けて運用してきました。

今年度は「奉仕事例集」という各クラブから投稿いただける機能を準備しましたので、積極的に投稿いただき、皆様の活動を広報することで、第2740地区の公共イメージ向上を全員で実現できればと思います。この「奉仕事例集」は新規会員獲得時の説明や、他クラブの活動を知ることによって自クラブの活性化を図るためのツールとしてもご活用いただければと考えております。

また、ガバナー月信や各種セミナー等の研修資料も掲載しておりますので、そちらも合わせてご活用ください。各地区委員長の皆様におかれましては、掲載希望の資料等がございましたら掲載いたしますので、資料のご提供にご協力ください。

公共イメージ部門は、それ単体では機能しにくい特性がございます。他の各部門と連携し、皆様の活動を世に知らしめることを役割と考えておりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

地区委員長挨拶

職業奉仕委員会

山本 正樹

佐賀南RC



昨年度に引き続き2022-2023年度地区職業奉仕委員長を仰せつかりました佐賀南ロータリークラブの山本正樹です。皆様のご協力何卒よろしくお願いいたします。

昨年度はコロナ禍での感染リスクを考慮したWeb環境の中で、9月に職業奉仕Zoomセミナーを開催することができました。対面開催はできませんでしたが、Zoomセミナーの利点にも新しく気付かされました。

本年度も職業奉仕委員会を進化させるべく、従来の受動型セミナーから脱却しファシリテーションを取り入れた参加型のセミナーの実践。またZoomを活用したWeb参加のセミナー。この2点に関しては今後も是非継続して取り入れていきたいと考えております。

特にセミナーでの卓越したDLによる少人数のファシリテーションは参加された方々の理解度は確実に深まるため、特に3年未満の会員の参加を促していきたいと考えてます。

分かりにくい職業奉仕と言われているからこそ、ファシリテーションによって高いリーダーシップ教育を行い、ロータリークラブを強固なものとする為にも、地区DLメンバーと連携しロータリアンの自主性と卓越した指導力を涵養し、クラブの刷新性と柔軟性を育てるべく、一丸となって邁進していきたいと考えております。

ロータリークラブの第一の真価は奉仕する人を育成し社会に寄与する事だと思います。その為にも委員長として1年間邁進していく所存でございます。

基本方針

- 1、RLIを通じてロータリーの職業奉仕理念を含めた基本理念の浸透。
- 2、セミナーに参加された方が各クラブのリーダーとなり職業奉仕についてクラブ内でファシリテーションを行う。
- 3、ロータリーの基本理念の承継、会員増強、魅力溢れるクラブ作りという各クラブのサイクルの構築。

上記3点を目標に掲げ、2740地区から多くの優秀な指導者の花が咲くべく下へ下へと根を伸ばす礎となればと考えております。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

社会奉仕委員会

植松 信安

鹿島RC



本年度、社会奉仕委員長を仰せつかりました鹿島ロータリークラブの植松信安と申します。昨年の佐藤委員長を引き継ぎ4名の委員会メンバーの方々と共に活動を行っていきま。何分にも初めて地区委員長を務めさせていただきますので分からない事が多く戸惑っております。皆様方のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

2020～2023年度地区社会奉仕テーマを

「社会奉仕を通してロータリーの公共イメージと認知度を向上させよう」と定め、

先ず、活動方針1：ロータリー奉仕デーへの積極的参加としました。

昨年に引き続き各クラブへロータリー奉仕デーの企画、参加を呼びかけ、のぼりや看板を用い、メディアへの情報発信を行いながら多くの市民の方々へロータリークラブの存在を知っていただき公共イメージを向上させる事業とします。

次に、活動方針2：「ひとり親家庭支援」について更なる認知度の向上を挙げております。前年度予定していた講演会を動画配信という形でUSBを各クラブに配布しました。ご覧いただいた方の中には涙された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかしそれだけでは「ひとり親家庭」の現状を認識して頂けないと考え、更にロータリークラブメンバーや市民の方々に活動団体の現状に関心を持っていただくための方法を用いたいと考えます。そのことによりロータリークラブの公共イメージを向上させ、多くの方々への認知度の向上を図りたいと思います。

以上の活動内容に各クラブのご理解ご協力をいただきますと共にその他の有意義な活動を実施されることをご祈念申し上げ、委員長就任の挨拶とさせていただきます。

地区委員長挨拶

ローターアクト委員会

高松 茂信

鹿島RC



マルティン・ルター氏の言葉に次の様なものがあります。
 「たとえ明日、世界が滅亡しようとも今日私はリンゴの木を植える。」私は今のこのご時世、これほどの確な言葉は無いのではと思います。確かにコロナ禍でローターアクト（以下RA）も地区行事やその他イベントが中止、延期、自粛等余儀なくされております。それはそれで仕方ないとしても、はなっから行わないというのは、NGでしょう。今日頑張った者にのみ明日はやってくる、頑張らない者に明日は来ない。ただ我々はその明日という日がどんな顔してこちらに来るかは誰も知らない。もしかしたら明日という日は最悪の形で訪れるかも知れません。それでも我々は今日という日を精一杯生きるしか無いのです。

所で今の10才～25才迄の人達をZ世代と呼んでいるみたいですが、このZ世代がRAの中心となっていきそうです。日本ではこのZ世代の人口比率は低いのですが、世界に目を向ければそれ以前のY世代（現在40代）よりも数が多く、今後世の中を動かすのはこのZ世代とも言われております。我々中年がこの新しい世代にしてあげられる事は、いったい何なのでしょう？パソコンやインターネット系で勝ち目の無い我々ですが、もしかしたらそういった若者の相談相手くらいは出来るかも知れません。ローターアクトクラブ（RAC）やインターアクトクラブ（IAC）に対し我々ロータリアンも積極的に携わっていききたいものです。今年1年ロータリアンの皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

インターアクト委員会

長戸 和光

牛津RC



2020-21年度、2021-22年度に引き続き、第2740地区インターアクト委員会の委員長を拝命することになりました牛津ロータリークラブの長戸和光と申します。本年度の始動にあたり、改めてご挨拶申し上げます。

青少年奉仕は、ロータリーの五大奉仕の1つとされておりますが、その一翼を担うインターアクトの活動を行うクラブとしては、当地区には現在のところ21のロータリークラブが提唱する22のインターアクトクラブがあり、各地で活動が行われています。

インターアクトクラブの活動としては、各クラブでの活動の外、インターアクトクラブ間の交流を図り、その研鑽を図る目的などから、地区のインターアクト活動として年次大会を毎年1度開催するほか、秋季と冬季の2度の指導者研修を開催して参りました。しかし、近年のコロナウイルス感染流行のため、私が委員長を務めた過去2年間においては、これらの大会や研修等は一切開催できず、委員会の活動としても取り上げられるようなことは行ってきておりませんでした。

しかし、本年度については、7月30日に、長崎中央ロータリークラブが提唱する純心女子高等学校インターアクトクラブをホストとして、年次大会を長崎市内にて開催することが予定されており、その準備が進んでおります。

もちろん、コロナウイルスの感染流行は完全に収束したわけではなく、確実に開催できる情勢ではありませんが、現在の状況が続けば、本年度は3年ぶりに年次大会を開催することが可能となるものと期待しておりますし、指導者研修についても開催の可能性が高まっているものと認識しており、本年度こそは、次年度以降に引き継ぐためにも、当委員会としても活発な活動を行って参りたいと願っているところです。

また、インターアクトクラブ活動認定制度については、周知不足で申請数がそれほど増加していない状況が続いていますが、年次大会等が開催されれば、案内の時間を設けるなどして周知を図り、申請数増加に向けた取り組みを行って参る所存です。

最後に、本年度こそは当委員会としても様々な活動を行いたいものと願い、年度初めの挨拶とさせていただきます。

地区委員長挨拶

国際青少年交換委員会

堀川 二雄

雲仙 諫早南RC



今年度、第2740地区国際青少年交換委員長を拝命致しました、雲仙 諫早南RC堀川^{ツギオ}二雄と申します。何卒宜しく願い申し上げます。

国際青少年交換事業は、世界100カ国以上で実施され、15歳～18歳の学生が一年間海外に滞在して、派遣先の言語や文化を学びながら友人を作り、世界市民としての自覚を養うことで、異文化を理解し、国境を越えた友情と信頼を築く機会をもたらす、国際親善大使の役目があり、ロータリーにとりましても非常に有意義なRIの根幹事業であります。

コロナ禍で過去2年間の事業停止があり、その間、派遣候補学生6人のアウトバウンド学生が進学等で辞退となりました。委員会にとりましても苦悩の2年間でしたが、今期は昨年よりオリエンテーションに参加した5人の学生を支援し、本年8月中旬には全員の渡航が決定しております。

久しぶりの交換事業再開に、委員会メンバー一同大変喜んでおります、とともに身の引き締まる責任も感じています。

当委員会は、多岐にわたる業務がありますので、大変ですが子供たちの成長を間近で応援できる非常に遣り甲斐のある委員会だと思っております。幸い委員会メンバーの皆様も情熱のある方ばかりですので、情報共有しながら協力して学生ファーストの委員会活動を行ってまいります。

また、近年は危機管理上の諸問題（自然災害・事故・セクハラ・パワハラ等）も山積しておりますので、地区危機管理委員会や青少年部門委員会と連携を取りながら改善に努めてまいります。

地区ロータリアンの皆様には、青少年交換事業に多大なご理解とご援助を頂き、この場を借りまして、改めて感謝申し上げます。

今後とも、ご支援、ご協力の程、重ねて宜しく願い申し上げます。

RYLA委員会

徳川 清隆

唐津RC



本年度、地区委員会として、ロータリーのRYLA基本理念に沿いながら活動出来るよう積極的に推進していきたいと考えております。

どうぞ、皆様のご指導ご鞭撻の程、宜しくお願いします。

RYLA委員会では、RYLA事業の方向性をロータリーファミリーが集える機会として定め、その機会を創出するために、ロータリーホストクラブやローターアクトを中心に連携を取りながらRYLA事業への開催を目指していきたいと考えております。

このRYLA事業では、ロータリー青少年指導者プログラムを基本とし、若者のリーダーシップスキルを磨くこと、若者の心に生涯にわたる奉仕の精神を育むことを目的とし、参加したプログラムを通じロータリーの奉仕理念へと導くことを見据えています。その傍ら、若者のリーダーシップ育成をロータリアンが支援することによりロータリーの青少年奉仕を実践する機会とし、ロータリアンにおいてもその成果を実感し、その重要性を感じ取っていただくよう図ります。

そして、ロータリーファミリー（ロータリアンと青少年ファミリー）がともに気付き合い、共に考えることでより深いロータリーの奉仕に触れ、ロータリーの中核的価値観の理解と共有を図れることを実現していきます。

（ここでロータリー青少年ファミリーとは、ローターアクト、インターアクト、国際青少年交換生の事を示します）

また、地域の青少年や社会人の方々が事業へ参加する機会を提供し、このロータリーの中核的価値観を身をもって体験することが可能となり、ロータリーへの理解や好意を促せる機会だと考えます。つまり、ロータリーの世界観がより良い方向に向かい、ロータリーへの好意の輪に繋がっていければと思います。そして、このRYLA事業での体験を、参加者の方々が様々な場面で活かせるような事業になり得るよう、検討し具現化していきたいと考えております。

最後に、地区委員会は、各クラブから輩出された委員会メンバーを中心に、委員会活動を推進していきます。どうか、皆様方のご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。1年間、宜しく願い申し上げます。

地区委員長挨拶

ロータリー財団委員会

岡村 康司

長崎南RC



今年度ロータリー財団委員会委員長を拝命しました。2021年千葉ガバナーの年度に委員長として就任して以来今年度で4年目を迎えることになりました。

2020年になってからコロナの影響で財団の大きな事業である「財団セミナー」「補助金管理セミナー」を2回中断したままになっています。そのため3年の任期を1年延長し就任させていただきました。今年度はより充実したセミナーとするために委員会メンバー全員で知恵を出し合い計画しようと考えています。

今年度も補助金委員会を筆頭に資金推進委員会、ポリオプラス委員会、資金管理委員会の4つの委員会と財団奨学・学友小委員会、グローバル補助金・平和フェロー小委員会、地区補助金小委員会の3つの小委員会を統率していきます。

財団の事業の中で特に力を入れているのが、地区補助金事業とグローバル補助金事業であります。とりわけグローバル補助金事業は、奨学生を募集、選考／面接して海外の大学（院）や研究機関に送り出し、世界で通用する人材として育成するロータリー財団の看板事業であるといえます。

財団へのご寄付は各クラブの会員数に応じてお願いしていますが、地区補助金事業のうち大半が長崎県のクラブで使われていますので、これからは佐賀県のクラブも積極的に地区補助金の活用をお願いいたします。

今年度も財団への寄付とご協力をお願いいたします。

補助金委員会

森本 大輔

大村RC



昨年度に引き続きロータリー財団委員会補助金委員長を拝命いたしました大村ロータリークラブの森本と申します。

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、企画していた地区補助金事業をやむなく中止せざるを得ない状況となってしまったいくつかのクラブがありました。そのようなクラブに、こうした状況下においても実施可能な事業を改めて企画立案し申請書を提出いただき、当委員会で年度の途中でしたが本部へ申請を行うということを試みました。結果として、いくつか事業が承認され、無事、事業を実施していただくことができました。

「ロータリー財団の使命は、ロータリー会員が、人びとの健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保全に取り組み、貧困をなくすことを通じて、世界理解、親善、平和を構築できるよう支援することです。」と謳われています。

今年度も、2740地区のロータリアンの皆さんが有意義な活動を行っていただけるよう、尽くしていきたいと考えています。

財団奨学・学友小委員会においては、さらなる高みを目指す優秀な奨学生を今年度も世界各地に送り出すべく、現在も活動を続けています。また、グローバル補助金事業の問い合わせも少しずつですが寄せられるようになってきました。しっかりサポートができるよう努めていきたいと思っております。

今年度も、当委員会の活動に対しご理解とご協力、そしてご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

地区委員長挨拶

資金推進委員会

西村 勇二

長崎RC



昨年度に引き続き、第2740地区資金推進委員会委員長を仰せつかりました、長崎ロータリークラブの西村勇二と申します。どうぞよろしくお願いいたします。昨年度はコロナの影響で各種セミナー等が中止になり残念でした。今年こそは開催されますことを期待しながら1年間頑張りたいと思います。

当委員会はロータリー活動を資金面から支えている「ロータリー財団」に対する寄付を推進する委員会です。地区が設定した寄付目標（一人あたり年間150\$、ポリオ根絶支援など）にしたがって、その金額を達成できるように支援する活動を行ってまいります。

皆様から頂いたご寄付の90%以上が奉仕プロジェクトに直接活かされます。

ロータリークラブは発展途上国にきれいな水をもたらし、平和活動に携わる人材を育成するなど持続可能な影響をもたらしています。またポリオ根絶活動においても予防接種活動を通じて発症数を99.9%減少させました。わずかな寄付で一人の子供の命を救うことができます。皆様からのご寄付はこうした活動に大切に活用されています。私たちは透明性を重視し、責任ある資金管理を行っていますので安心してご寄付いただけます。どうか皆様方のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

ポリオプラス委員会

瀬戸 信二

長崎南RC



昨年度に引き続き第2740地区ポリオプラス委員長を拝命することになりました。2年目となりますが、まだまだ至らぬ点が多いかと存じます。今年度もご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

ポリオは、ポリオウイルスで汚染された水などがヒトの口に入り、腸の中で増殖し感染します。さらに、感染者の腸で増えたウイルスが排出され下水に流入し、上下水道が整備されていないなど衛生状態が悪い場合に、再びヒトの口に入り、感染が拡大します。1988年以降、世界的なポリオワクチン接種の徹底により、ポリオウイルス根絶の試みは大きな進捗が見られ、2015年9月に2型野生株、2019年10月には3型野生株も根絶宣言がなされました。現在、残されているのは、1型野生株の伝播が継続しているアフガニスタン（2022年1例、2021年4例）とパキスタン（2021年1例）のみです。このように野生株ポリオウイルスについては、世界根絶宣言も時間の問題とされています。

ところが、経口生ワクチンに使われる弱毒化ポリオウイルスが、ごく稀に遺伝子変異を起こし、野生株と同様の毒性を持つようになることが新たな問題となっています。伝播型ワクチン由来ポリオウイルス（cVDPV）と呼び、その発生が21か国で確認されています。cVDPVは、ポリオワクチンの接種割合が極端に低下した地域で、ワクチン株ウイルスが下水などで少なくとも1年以上にわたって循環し続けた場合に、発生する可能性が出てきます。「ワクチンの接種率が低下し、人口密度が高く非常に不衛生な場所、例えば都市のスラム街」でcVDPVが広がる懸念が浮上しています。野生株の根絶を完了させることとcVDPVの伝播を止めることが現在の課題です。この予防には、ワクチン追加接種とウイルス検出サーベイランスがとても重要です。ロータリアンの皆様のご理解とご協力・ご支援宜しくお願いします。

地区委員長挨拶

資金管理委員長

西川 義文

大村RC



今年度、資金管理委員長を仰せつかりました西川です。
当委員会の責務(仕事内容)は、地区補助金、財団補助金を利用するロータリアンに向けて、財団の事業の周知と利用の推進を図っていきます。
委員会の事業内容は以下の項目に要約されます。

1. 財務管理計画の作成と「地区の覚書 (MOU)」の締結を支援する。
2. 補助金セミナーを企画実施して、クラブの参加資格認定事業を支援する。
3. クラブと地区が提唱するすべての補助金事業において適切な管理を指導する。
4. 補助金に関与するすべての人の利害が対立しないような運営を心がける。

補助金の利用に関しては、RI及び財団の公正で明瞭な会計ルールの下に厳格に行いますが、それが利用の促進を妨げないよう配慮していきたいと思います。

宜しくご協力のほどお願い致します。

米山記念奨学委員会

松田 洋一

諫早北RC



今年度で3年目の第2740地区米山記念奨学委員会委員長を仰せつかりました。
諫早北ロータリークラブの松田です。今年度もどうぞ宜しくお願いします。

皆様、ご承知の通り米山記念奨学事業は、勉学、研究を志して日本に存留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間最大の奨学団体です。将来母国と日本の架け橋となって、国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。

地区委員会は、ロータリアンの皆様の寄付金に託す思いと、感謝を実績で伝える様に努力してまいります。又、広報寄付増進担当リーダーを本村一委員(佐賀西RC)、学友会・奨学生担当リーダーを本多善彦委員(雲仙 諫早南RC)のベテランのお二人に継続してお願いし、米山記念奨学事業運営に対し地区委員一丸となって活動をしていく所存で御座います。

今年度も上村ガバナーより、個人平均寄付金額¥16,000/人を目指すことを呼びかけて頂いておりますので、『ロータリーの国際奉仕の真髄』であります米山奨学事業に対して、皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。就任の挨拶に代えさせていただきます。

2022-2023年度 米山記念奨学委員長セミナー報告米山記念奨学委員会 委員 **錦織 信貴** (佐賀RC)

2022-2023年度国際ロータリー第2740地区「米山記念奨学委員長セミナー」が去る6月18日(土)西九州大学佐賀キャンパスにおいて開催されました。

当日は、上村春甫ガバナーエレクト・各クラブから米山記念奨学委員長・米山記念奨学生・米山学友会そして地区役員等総勢約90名の参加をいただいて開催されました。

はじめに、上村ガバナーエレクトから、米山記念奨学会事業の意義に触れられ参加者に対し、本事業の発展に寄与するよう激励の挨拶がありました。

続いて、松田洋一米山記念奨学委員会委員長から米山記念奨学事業についてお話しいただきました。このなかで2021年度奨学生制作の卒業アルバムの紹介が

あり、奨学生の生き生きとした様子に触れることができました。

講演は、元奨学生であるトーゴ出身のアドゥアヨム・アヘゴ・アクエティよねやま親善大使を講師に迎え、義肢装具の研究・指導や発展途上国での支援の意義をお話しいただきました。

続いて、学友会アメリカリズキー会長から学友会の説明があり、このなかで米山奨学金のおかげで勉学に専念することができ、ひいては就職にも有利に働いたとのことでした。同会のマジョンジュ幹事は奨学会事業で交流を深め日本で就職したこと、また、レーチュンハイ監事は自国と日本との架け橋になりたいと抱負を話されました。

総評では、宮崎清彰米山記念奨学評議員がこの事業が寄付により成り立っていることから当日出席者をはじめ、各クラブのロータリアンへの協力要請がありました。

最後に、本村一地区委員が閉会の辞で米山奨学会事業の知識を深めて各クラブにおいて話をしてほしいと話されました。

出席者の皆さまありがとうございました。また、奨学生・地区委員の皆さまには、準備・運営・片付けまでお疲れさまでした。



2023学年度米山記念奨学生募集学校説明会 報告

米山記念奨学委員会 委員 **高谷 信一** (長崎出島RC)

2022年6月24日(金)14:00から諫早文化会館において2023学年度米山記念奨学生募集学校説明会が開催されました。

地区内佐賀、長崎にある9つの大学から奨学生との窓口となる担当者が10名、地区から米山奨学委員会の松田委員長を始めとした5人の委員、計15名が集まり執り行われました。

大学は本説明会への参加を経たのち8月初旬に指定校として選定され、学生を推薦できるようになるための重要な集まりです。

まず、松田委員長からこれまで募集に応じて優秀な学生を推薦して頂いたことへの感謝を伝えた後、米山奨学事業及び募集要項に関する説明があり、本多委員、本村委員による質疑応答を経て、個別の相談を受け付けました。

最後に、今後も各学校とより一層の緊密な関係を結ぶとともに、国際ロータリー第2740地区米山記念奨学会にふさわしい学生を推薦して頂く様、さらなる協力をお願いをし、本年度の学校説明会を終了いたしました。



国際青少年交換委員会報告

2021-22年度国際青少年交換委員会 委員長 **樋口 征司** (雲仙 諫早南RC)

塚崎寛ガバナー、上村春甫ガバナーエレクト、岡田康信地区幹事、山下雄司次年度地区幹事をお迎えし、2021-2022年度最後のオリエンテーションを6月26日(日)に行いました。

先ず塚崎寛ガバナーより学生に労いのご挨拶を頂きました。

出来あがってきたばかりのブレザーを一人ひとりに手渡しして羽織って学生の写真を撮る時には2年もの間中止になっていた交換留学がいよいよスタートするんだなど実感が湧いて学生、親御さん共に笑顔があふれとても嬉しく思えました。

学生一人ひとり約30分パワーポイントを使い英語でのプレゼンを立派に行うことができました。

そのあと学生が必ず登録しなければならないYESSへの登録のやり方を地区委員の方々から教わり、最後に上村春甫ガバナーエレクトより講評をいただき最後のオリエンテーションを終了いたしました。



地区大会日程のお知らせ



日程

11月25日 (金)	ロータリー研修セミナー	ホテルニューオータニ佐賀
	RI会長代理晩餐会	ホテルニューオータニ佐賀
11月26日 (土)	本会議・記念講演	佐賀市文化会館
11月27日 (日)	記念親睦ゴルフ	フジカントリークラブ



記念講演講師 **池上 彰** 氏

プロフィール

1950年、長野県生まれ。1973年、NHKに記者として入局。松江、呉での勤務を経て、東京の報道局社会部に在籍。1989年より5年間、「首都圏ニュース」のキャスター。1994年より2005年まで「週刊こどもニュース」の“お父さん”を務める。2005年に独立。現在は名城大学教授、東京大学客員教授、東京工業大学特命教授など11の大学で教鞭を執る。

肥前國

の風景

佐賀城の南堀
〔佐賀県佐賀市〕

佐賀城は、龍造寺氏の居城・村中城を拡張して築かれたもので、慶長七年（一六〇二年）本丸の建築に始まり、慶長十六年まで十年の歳月を費やして完成しました。

佐賀城は、典型的な平城（平地に築いた城）で高い石垣は天守閣付近のみで、まわりは堀と土塁をめぐらしてあります。

夏には、南堀に蓮の花が咲き白く美しい姿が水面に映えます。

その花言葉は「清らかな心」といわれ、見ていると気持ち落ち着いてくるようです。



編集後記

今年は梅雨入りしたかと思えば、あっという間に梅雨明けし、猛暑を予測される暑い夏がやってきました。熱中症対策など健康管理に気をつけながら新年度をスタートしたいものです。ガバナー月信も様々な活動等を楽しんでもらえる紙面づくりを頑張っていきたいと思います。(真)

国際ロータリー第2740地区
ガバナー事務所

〒849-0913 佐賀市兵庫町大字淵4604-1
TEL 0952-37-3138 FAX 0952-37-3139
E-mail ri2740uemura@shunyoukai.jp
URL <https://rotary2740.jp/>

